

PRIMERGY TX100 S2 用 D2779 BIOS セットアップユーティリ ティ

リファレンスマニュアル

DIN EN ISO 9001:2000 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2000 基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH
www.cognitas.de

著作権および商標

Copyright © 2010 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名およびソフトウェア名は、各社の商標です。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上の注意およびその他の重要情報』をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、『安全上の注意およびその他の重要情報』およびマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

アルミ電解コンデンサについて

本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。

目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短時間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

日本市場の場合のみ：

SATA ハードディスクドライブについて

このサーバの SATA バージョンは、SATA/BC-SATA ストレージインターフェースを搭載したハードディスクドライブをサポートしています。ご使用のハードディスクドライブのタイプによって使用方法と動作条件が異なりますので、ご注意ください。

使用できるタイプのハードディスクドライブの使用方法と動作条件の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/harddisk/>

目次

1	はじめに	7
2	BIOS セットアップの操作方法	9
2.1	BIOS セットアップ	9
2.2	Boot メニューを直ちに開く	9
2.3	画面構成	10
2.4	BIOS セットアップでの設定の誤り	11
2.5	BIOS セットアップを終了する	11
3	Main メニュー	13
3.1	SATA Port	13
3.2	Boot Features	16
4	Advanced メニュー	19
4.1	Peripheral Configuration	20
4.2	Advanced System Configuration	22
4.3	Advanced Processor Options	23
4.4	System Management	28
4.5	Console Redirection	30
5	Security メニュー	33
5.1	TPM (Trusted Platform Module) Settings	36
6	Power メニュー	39

目次

7	Boot メニュー	43
8	Exit メニュー	45
9	Flash BIOS アップデート	47
9.1	Flash Memory Recovery Mode	48
索引	51

1 はじめに

BIOS セットアップでは、ご使用のシステムのシステム機能とハードウェア構成を設定します。行った変更は、設定を保存して BIOS セットアップを終了すると有効になります。

BIOS セットアップの各メニューで、以下の項目の設定を行います。

- *Main* システム機能
- *Advanced* 内蔵デバイスのシステム構成
- *Security* セキュリティ機能
- *Power* 電源管理機能
- *Boot* 起動順位の設定
- *Exit* 保存と終了

設定項目は、ご使用のシステムのハードウェア構成によって異なります。

そのため、ご使用のシステムの BIOS セットアップではメニューや特定の設定オプションが使用できない場合や、BIOS バージョンによってメニューの場所が異なる場合があります。

はじめに

表記規定

このマニュアルで使用されているフォントや記号の意味は、以下のとおりです。

イタリック	コマンド、メニュー項目、パス名、およびファイル名を示します。
fixed font (固定幅フォント)	システム出力を示します。
semi-bold fixed font (セミボールド固定幅フォント)	キーボードで入力する必要があるテキストを示します。
▶	行う必要がある作業を示します。
[Abc]	キーボードのキーを示します。
	補足情報を示します。
 注意!	守らなかった場合にお客様の安全、システムの操作性、データのセキュリティを害する事柄を示します。

2 BIOS セットアップの操作方法

2.1 BIOS セットアップ

- ▶ システムを起動して、画面出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F2]** を押します。
- ▶ セットアップパスワードが割り当てられている場合は、そのパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押して確定します。

BIOS セットアップの *Main* メニューが画面に表示されます。

- ▶ ファンクションキー **[F1]** を押します。

BIOS のリリース情報が表示されます。

- BIOS release (例 Version 1.00.2779)
最後の数字はシステムボードの番号を示しています。この番号は、ServerView Suite DVD 2 からご使用のシステムボードのマニュアルを探す際に必要です。また、インターネットから BIOS アップデートをダウンロードする際に、どれをダウンロードしたらよいか、この番号からわかります (47 ページ の「Flash BIOS アップデート」を参照)。

Main メニューが表示されない場合

- ファンクションキー **[F2]** を押しても *Main* メニューが表示されない場合は、**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]** キーを同時に押してシステムを再起動してから、BIOS セットアップユーティリティを起動します。

2.2 Boot メニューを直ちに開く

Boot メニューで設定した最初のドライブからシステムを起動しない場合に、この機能を使用します。

- ▶ システムを起動して、画面出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ ファンクションキー **[F12]** を押します。
Boot メニューが、ポップアップウィンドウとして表示されます。
- ▶ カーソルキー **[↑]** または **[↓]** を使用して OS を起動するドライブを選択し、**[Enter]** キーを押して確定します。選択オプションは、*Boot* メニューと同じです。

BIOS セットアップの操作方法

ドライブに感嘆符 (!) が付いている場合は、そのドライブはブート時には使用できません。

i 選択したオプションが、現在のシステム起動に適用されます。次のシステム起動時には、*Boot* メニューで行った設定が再び適用されます。

- ▶ BIOS セットアップを起動するには、「*Setup*」パラメータを選択し、**[Enter]** キーを押して確定します。

2.3 画面構成

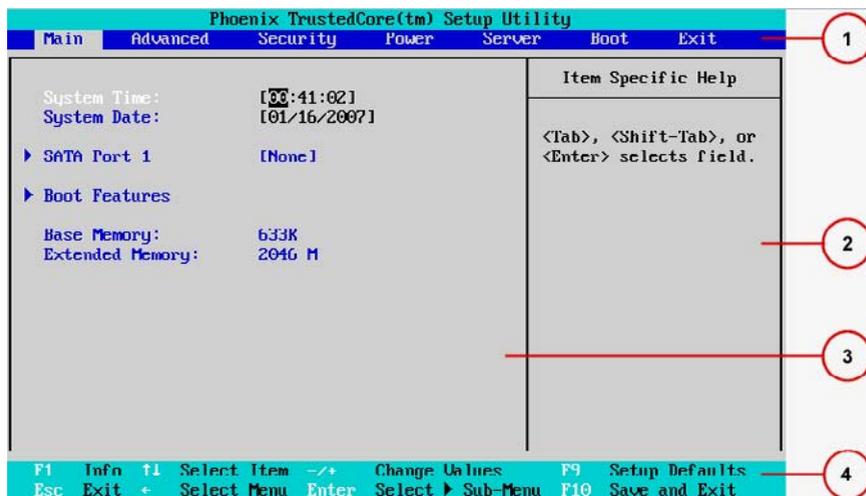


図 1: BIOS セットアップ画面の例

BIOS セットアップ画面は、以下の領域に分かれています。

1 メニューバー

さまざまな BIOS セットアップメニューの選択に使用します。

2 ヘルプ領域

ヘルプ領域には、簡単な説明が表示されます。

3 作業領域

作業領域には、選択したメニューのパラメータが、現在の値とともに表示されます。パラメータ値は要件に従って変更できます（該当のフィールドがグレイアウトされていない場合）。

- ▶ サブメニューがあるパラメータを示します。
 - * システムを正しく機能させるために解決する必要がある設定の競合を示します。

4 操作領域

操作領域には、BIOS セットアップで使用できるキーがリストアップされます。

2.4 BIOS セットアップでの設定の誤り

BIOS セットアップで誤った設定を行ったためにシステムをブートできず、3 回続けてブートを失敗すると、いったんデフォルトの BIOS セットアップ設定が適用され、その次にシステムが起動します。

以下のエラーメッセージが表示されます。

Previous boot incomplete - Default configuration used

[F2] キーを押すと、BIOS セットアップの設定を確認し、修正することができます。修正すると、エラーは起こらず、再びシステムを起動できます。

2.5 BIOS セットアップを終了する

- ▶ *Exit* メニューで、必要なパラメータを選択し、[Enter] キーを押します。

3 Main メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

System Time / System Date

システムに設定されている現在の日付 / 時刻が表示されます。

システム時刻の形式は *HH:MM:SS* で、システム日付の形式は *MM/DD/YYYY* です。

現在の時刻 / 日付設定を変更するには、「*System Time*」 / 「*System Date*」フィールドに、それぞれ新しい時刻と日付を入力します。「*System Time*」および「*System Date*」フィールド内のカーソル移動には **[Tab]** キーを使用します。

i システムの電源を切ってから再度投入した後、システム時刻および日付が失われる場合は、リチウムバッテリーが切れていまずので交換が必要です。

リチウムバッテリーの交換方法についての詳細は、システムボードのマニュアルを参照してください。

SATA Port 1 ~ 6

該当する SATA デバイスの設定が表示されるサブメニューを呼び出します（[13 ページ](#) の「**SATA Port**」を参照）。

Boot Features

システムブート設定の選択に使用するサブメニューを呼び出します（[16 ページ](#) の「**Boot Features**」を参照）。

System Memory

1 MB 未満の使用可能なベースメモリのサイズが KB 単位で表示されま
す。

Extended Memory

1 MB を超えるメインメモリのサイズが MB 単位で表示されます。

3.1 SATA Port

このサブメニューのパラメータはすべて表示専用で、選択することはできません。また、デフォルト設定値に変更できません。これらのメニューには、SATA デバイスのパラメータが表示されます。

Main メニュー

Total Sectors

ハードディスクのセクタ数が表示されます。



CD/DVD/BD メディアには当てはまりません。

Maximum Capacity

ハードディスクの容量が LBA 値として表示されます。LBA (Logical Block Addressing : 論理ブロックアドレッシング) 値は、ハードディスクによって報告された可能最大セクタ数に基づいて BIOS によって計算された容量です。



CD/DVD/BD メディアには当てはまりません。

Multi-Sector Transfers

BIOS によって自動的に検出されるブロックごとのセクタ数が表示されます。

Disabled

2 sectors

4 sectors

8 sectors

16 sectors

LBA Mode Control

シリアルセクタ番号を使用してアドレッシングモードを設定します (LBA)。

Disabled

BIOS では、ハードディスクのパラメータを使用します。したがって、最大 528 MB の記憶容量をサポートします。

Enabled

LBA モードをサポートしているハードディスクにおいて、記憶容量が 528 MB 以上の場合、BIOS では変換されたハードディスクのパラメータを使用します。これによって、ハードディスクの全記憶容量を使用できます。

32 Bit I/O

プロセッサとハードディスクコントローラ間のデータ転送バス幅を指定します。

Disabled

16 ビットのバス幅でデータ転送が行われます。

Enabled

32 ビットの PCI バス上でデータ転送が行われます。これによってパフォーマンスが向上します。

Transfer Mode

ハードディスクからメインメモリにデータを転送するための転送モードを指定します。

*Standard**Fast PIO_1**Fast PIO_2**Fast PIO_3**Fast PIO_4**FPIO 3/DMA 1**FPIO 4/DMA 2**Ultra DMA Mode*

ハードディスクドライブに対して、高速 Ultra DMA 転送モードを指定します。

Disabled

高速 Ultra DMA 転送モードが設定されません。

Mode 0, 1, 2, 3, 4, 5,6

高速 Ultra DMA 転送モードが設定されます。

SMART Monitoring

ハードディスクドライブに対して SMART (Self Monitoring Analysis Reporting Technology) 監視を有効にするかどうかを指定します (Read only)。

Disabled

SMART 監視機能は無効です。

Enabled

SMART 監視が有効になります。つまり、「*SMART Device Monitoring*」パラメータが「*Enabled*」に設定され、該当のハードディスクドライブが SMART をサポートします。

Firmware

SATA デバイスのファームウェアバージョン番号を示します。

3.2 Boot Features

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

POST Errors

エラーの検出時にシステムのブートを中断し、システムを停止するかどうかを指定します。

Disabled

システムのブートは中断されません。重大度にもよりますが、エラーは無視されます。

Enabled

自己診断でエラーが検出されると、自己診断後にシステムのブートが中断され、システムが停止します。

[F1] キーを押すとシステムのブートを続行できます。また、
[F2] キーを押すと、セットアップユーティリティを起動できます。

SM Error Halt

システム監視デバイスによってシステム監視エラー（ファンの故障やセンサーの故障など）が確認された場合、自己診断中にシステムを停止するかどうかを指定します。

Disabled

システム監視デバイスが BIOS にエラーを報告しても、システムのブートは停止しません。この場合、警告メッセージが表示されるだけです。

Enabled

システム監視デバイスが BIOS にファンまたはセンサーの故障を報告すると、自己診断中にシステムのブートが停止します。

[F1] キーを押すとシステムのブートを続行できます。また、
[F2] キーを押すと、セットアップユーティリティを起動できます。

Fast Boot

自己診断の範囲が狭くなり、ブートの時間が短縮されます。

Disabled

システムの電源を入れると、完全自己診断が実行されます。

Enabled

システムの電源を入れると、簡易自己診断が実行されます。

POST Diagnostic Screen

ブートロゴまたは起動情報を画面に表示するかどうかを指定します。

Enabled

起動情報が表示されます。

Disabled

ブートロゴが画面に表示されます。**[ESC]** キーを押すか、エラーが発生すると、起動情報の表示に切り替わります。

Boot メニュー

[F12] キーを押して POST プロセス中に Boot メニューを起動するかどうかを指定します。

Disabled

Boot メニューを起動できません。

Enabled

Boot メニューを起動できます。

NumLock

システム起動時のキーボードテンキーエリアの機能を指定します。

Auto

以前の NumLock ステータスから変更しません。

On

システム起動時に、キーボードのテンキーエリアが数値入力に使用されます。

Off

システム起動時に、キーボードのテンキーエリアは矢印キーとして使用されます。



キーボードの *Num* 表示ランプは現在のステータスを報告します。キーボードの **[Num]** キーで、*On / Off* の切り替えができます。

4 Advanced メニュー



注意！

デフォルト設定を変更するのは、特別な目的で変更が必要な場合だけにしてください。このメニューの設定が正しくないと、コンピュータが誤動作する場合があります！

Peripheral Configuration

ポートおよびコントローラの設定の調整に使用するサブメニューを呼び出します（20 ページ の「[Peripheral Configuration](#)」を参照）。

Advanced System Configuration

システムの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します（22 ページ の「[Advanced System Configuration](#)」を参照）。

Advanced Processor Options

プロセッサの追加設定に使用するサブメニューを呼び出します（23 ページ の「[Advanced Processor Options](#)」を参照）。

このサブメニューで使用できる設定は、ご使用のプロセッサによって異なります。

PCI SLOTS Configuration

このスロットに取り付けられている拡張カードの Option ROM を起動するかどうかを制御します。

Disabled

拡張カードの Option ROM を起動しません。

Enabled

拡張カードの Option ROM を起動します。

System Management

ファンと温度センサーを設定して監視できるサブメニューを呼び出します（28 ページ の「[System Management](#)」を参照）。

Console Redirection

システムの端末を操作するための設定を行うサブメニューを呼び出します。直接シリアル接続（モデムケーブルなし）で端末をサーバシステムに接続できます。画面出力は、端末とシステムモニタで同時に行われます。また、端末のキーボード入力はシステムに送信され、接続されているサーバのキーボードでの入力と同様に処理されます。たとえば、システムの BIOS セットアップを端末で呼び出して変更することができます（30 ページ の「[Console Redirection](#)」を参照）。

4.1 Peripheral Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Serial 1

該当のシリアルインターフェースを設定します。

Disabled

シリアルインターフェースは無効になります。

Enabled

シリアルインターフェースは有効になります。

Auto

BIOS または OS によってシリアルインターフェースが自動的に選択されます。

Parallel Port

パラレルポートを設定します。

Disabled

パラレルポートは無効になります。

Enabled

パラレルポートは有効になります。「Enabled」を選択すると、構成を設定するための項目がさらに表示されます。

Auto

パラレルポートは、次に使用可能な組み合わせ（アドレス、割り込み）に自動的に設定されます。「Auto」を選択すると、構成を設定するための項目がさらに表示されます。

Parallel Mode

パラレルポートを入出力ポートとして双方向で使用するか、出力ポートとしてのみ使用するかを指定します。

Printer

ポートは出力ポートとしてのみ機能します。

Bidirection

ポートで双方向のデータ転送が可能です。

EPP

高速転送モード（最大 2 Mbps）でのデータの送受信が可能です。このモードでは、EPP（Enhanced Parallel Port）モードをサポートする周辺装置が必要です。

ECP

高速転送モード（最大 2.4 Mbps）でのデータの送受信が可能です。このモードでは、ECP（Enhanced Capability Port）モードをサポートする周辺装置が必要です。必要な DMA チャンネルは、プラグアンドプレイによりシステムによって定義されます。

USB Host Controller

USB コントローラが有効か無効かを指定します。この機能が無効になっていると、いかなる OS も USB コントローラを認識できません。その結果、USB デバイスは動作できません。

Disabled

BIOS POST 後に USB ホストコントローラが無効になります。BIOS セットアップユーティリティで USB キーボードと USB マウスを使用することはできません。

Enabled

USB ホストコントローラが有効になります。

USB Devices

レガシーサポートを有効にする USB デバイスを指定します。レガシーサポートにより、OS の USB ドライバをインストールしなくても、レガシー BIOS インターフェースを介して USB キーボード、USB マウス、USB マスストレージデバイスを使用できるようになります。

None USB レガシーサポートは提供されません。

Keyboard And Mouse Only

キーボードとマウスに対してのみ USB レガシーサポートが有効になります。

All BIOS でサポートされているすべてのデバイスに対して USB レガシーサポートが有効になります。

USB Front

外部前面 USB ポートを有効または無効にします。

Enabled

外部前面 USB ポートが有効になります。

Disabled

外部前面 USB ポートが無効になります。

USB Rear

外部背面 USB ポートを有効または無効にします。

Enabled

外部背面 USB ポートが有効になります。

Disabled

外部背面 USB ポートが無効になります。

LAN Controller

システムボードの LAN コントローラを有効にするかどうかを指定します。

Disabled

LAN リモートコントローラは無効になります。

Enabled

LAN リモートコントローラは有効になります。

LAN Remote Boot - Load operating system via LAN

オペレーティングシステムをサーバから読み込めるようにします。この機能は、特にフロッピーディスクドライブもハードディスクドライブも取り付けられていない場合、またはこれらの電源が入っていない場合に使用されます。

Disabled

LAN Remote Boot が無効になります。

Enabled

LAN Remote Boot が有効になり、ローカルネットワーク接続を使用してオペレーティングシステムがサーバから読み込まれるようになります。

4.2 Advanced System Configuration

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Onboard Video

ディスプレイカードがシステムに取り付けられている場合は、システムボード上のグラフィックコントローラを無効にできます。

Disabled

システムボード上のグラフィックコントローラは無効になります。

Enabled

システムボード上のグラフィックコントローラは有効になります。

High Precision Event Timer

有効にした場合は、OS が High Precision Event Timer を使用できます。これによって、タイムクリティカルなアプリケーションの要件を満たすことができます。

このタイマは、マルチメディアタイマとも呼ばれています。

Disabled

High Precision Event Timer が無効になります。

Enabled

High Precision Event Timer が有効になります。

SMART Device Monitoring

取り付けられているすべての SATA デバイスに対して、SMART (Self Monitoring Analysis Reporting Technology) を有効または無効にします。

SMART は、ハードディスクの誤動作の予測に使用できます。

Disabled

SMART は、すべての SATA デバイスに対して無効になります。

Enabled

SMART は、すべての SATA デバイスに対して有効になります。

SATA Mode Selection

SATA インターフェースの動作モードを指定します。

Native

SATA インターフェースは Native Mode で動作します。

AHCI

SATA インターフェースは AHCI Mode で動作します。

RAID

SATA インターフェースを RAID として使用します。

Compatible

SATA インターフェースは Compatible Mode で動作します。

4.3 Advanced Processor Options

このサブメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

CPU Mismatch Detection

プロセッサデータ（プロセッサのタイプと速度）の確認を有効または無効にします。前後の起動でプロセッサデータが変わったかどうかを確認するチェックが行われます。マルチプロセッサシステムで、すべてのプロセッサのプロセッサデータが同一であるかどうかを確認するためのチェックも行われます。

プロセッサデータが異なると、エラーメッセージが表示されます。

Disabled

CPU Mismatch Detection が無効になります。

Enabled

CPU Mismatch Detection が有効になります。

Enhanced SpeedStep

プロセッサの電圧と周波数を指定します。EIST（Enhanced Intel SpeedStep® Technology）は省電力機能です。



プロセッサの電圧をそれぞれのシステム要件に適合させます。クロック周波数を減らすと、システムの消費電力が減少します。

Disabled

Enhanced SpeedStep 機能が無効になります。

Enabled

Enhanced SpeedStep 機能が有効になります。

Enhanced Idle Power State

OS でサポートしている場合、CPU 停止が可能であれば CPU を停止し、エネルギーを節約します。

Disabled

Enhanced Idle Power State 機能が無効になります。

Enabled

Enhanced Idle Power State 機能が有効になります。

Turbo Boost Technology

より高いパフォーマンス状態（P0）が OS によって要求される場合に、プロセッサの動作周波数を上げることができます。

Disabled

Turbo Boost Technology が無効になります。

Enabled

Turbo Boost Technology が有効になります。

Core Multi-Processing

物理プロセッサパッケージ内で複数のプロセッサコアを使用するかどうかを指定します。

Disabled

1 個のプロセッサパッケージに単一のコアを使用します。

Enabled

1 個のプロセッサパッケージに使用可能なすべてのコアを使用します。

Hyper-Threading

Hyper-threading Technology は、シングルコアの物理プロセッサを複数の論理プロセッサであるかのように見せかけることができます。このテクノロジーにより、OS によるプロセッサ内部資源の効率的な利用が可能になり、結果的にパフォーマンスが向上します。このテクノロジーの利点を使用できるのは、ACPI をサポートしている OS だけです。この設定は、ACPI をサポートしていない OS には影響を与えません。

Disabled

ACPI OS は、物理プロセッサの最初の論理プロセッサのみを使用できます。この設定は、Hyper-threading Technology が ACPI OS に正しくインプリメントされなかった場合のみ使用してください。

Enabled

ACPI OS は、物理プロセッサ内のすべての論理プロセッサを使用できます。

Virtualization Technology (VT-x)

仮想コンピュータを使用して複数のソフトウェア環境の使用をサポートするための VMX (Virtual Machine Extensions) に基づいて、プラットフォームのハードウェア環境および複数のソフトウェア環境の仮想化をサポートします。仮想化テクノロジーにより、16 ビット/32 ビット保護モード、および EM64T (Intel® Extended Memory 64 Technology) モードでの仮想化を目的としてプロセッササポートを拡張します。

Disabled

VMM (Virtual Machine Monitor: 仮想マシンモニタ) で、追加のハードウェア機能は使用できません。

Enabled

VMM で、追加のハードウェア機能を使用できます。

Virtualization Technology (VT-d)

VT-d で、複数の仮想マシン間の共有 I/O デバイスに対してハードウェアサポートを提供します。VMM（仮想マシンモニタ）で、同一の物理 I/O デバイスにアクセスする複数の仮想マシンを管理するための VT-d を使用できます。

Disabled

VT-d が無効になり、VMM で VT-d を使用できません。

Enabled

VT-d が有効になります。

NX Memory Protection

実行可能メモリ領域の保護（ウイルス対策保護）を指定します。この機能は、OS がサポートしている場合のみ有効です。

Enabled

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできるようにします。

Disabled

OS の *Execute Disable* 機能を有効にできないようにします。

Adjacent Cache Line Prefetch

プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する 64 バイトキャッシュラインをロードするためのメカニズムがプロセッサに備わっている場合に、このパラメータを使用できます。



このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Enabled

プロセッサは、要求されたキャッシュラインと隣接キャッシュラインをロードします。

Disabled

プロセッサは、要求されたキャッシュラインをロードします。

Hardware Prefetch

ハードウェアプリフェッチを有効にします。



このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Enabled

CPU のハードウェアプリフェッチを有効にします。

Disabled

CPU のハードウェアプリフェッチを無効にします。

DCU Streamer Prefetch

有効になっている場合、メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるデータ内容が自動的に L1 キャッシュにプリロードされます。メモリではなくキャッシュから内容をフェッチすることによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。



このパラメータを使用して、非標準アプリケーションのパフォーマンス設定を変更できます。標準アプリケーションのデフォルト設定に従うことをお勧めします。

Enabled

CPU の *DCU Streamer Prefetch* を有効にします。

Disabled

CPU の *DCU Streamer Prefetch* を無効にします。

Limit CPUID Functions

プロセッサで呼び出すことができる CPUID 機能の数を指定します。OS によっては、3 つを超える機能をサポートする新しい CPUID コマンドを処理できないものもあります。これらの OS では、このパラメータを有効にする必要があります。

Disabled

すべての CPUID 機能がサポートされます。

Enabled

OS との互換性の理由から、プロセッサでサポートされる CPUID 機能の数が減少します。

CPU MC Status Clear

プロセッサがエラーを検出すると、ステータスレジスタに原因が記録されます。一部のエラーは即座に処理することができ、その他のエラーはシステム障害を引き起こす場合があります。プロセッサは、電源を切るまで MCA (Machine Check Architecture) ステータスを保持できます。リセット後、BIOS はこれらの CPU の MCA ステータス表示を POST フェーズで処理し、検出されたランタイムエラーをログに記録することができます。

Disabled

CPU の MCA ステータスレジスタは、BIOS によってクリアされません。

Enabled

CPU の MCA ステータスレジスタは、各システムの起動時に BIOS によってクリアされます。

Next Boot

CPU の MCA ステータスレジスタは、エラーステータスを検出した起動後の次の起動時に、BIOS によってクリアされます。したがって、エラーが発生した後、次にリポートするときに MC エラーを分析できます。

CPU Timeout Counter

プロセッサの内部時間監視は、ここで有効 / 無効にできます。内部時間監視が有効になっている場合は、プロセッサは内部タイムアウトと CPU バスのタイムアウトの両方を検出します。プロセッサは、検出したタイムアウトを外部シグナルで知らせます。その場合には、システムはリポートされます。

時間監視が無効になっている場合は、システムは動作不能のままとなる場合があります。

Disabled

プロセッサの内部時間監視が無効になります。

Enabled

プロセッサの内部時間監視が有効になります。

4.4 System Management

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Battery State

CMOS バッテリーの電圧が十分であるかどうかを示します。「Fail」が表示される場合、CMOS バッテリーを交換してください。

OK CMOS バッテリーの電圧が十分です。

Fail CMOS バッテリーを交換する必要があります。

SM Fan Control

ファン速度を制御します。使用するシステム構成とアプリケーションによっては、あらかじめ設定されているモードを変更できます。システムの使用可能な拡張やアップグレードが完全に構成されている場合、サイレントモードは推奨しません。

Enhanced Cooling

ファン速度を自動的に高速化します。

Auto

ファン速度が自動的に調整されます。

Silent

最初にプロセッサ速度を温度によって制御してから、ファン速度を自動的に適応させます。これにより、システムをより静かに動作させることができます。

Disabled

ファン速度が最大に設定されます。

Fan State

プロセッサ (CPU) のファン、電源ユニットのファン、および実行可能な追加ファン (システム、予備) のファンが回転しているかどうかを示します。ファンはこの機能をサポートしている必要があります。「OK」が表示される場合、ファンはこの機能をサポートしており動作しています。「None」が表示される場合、ファンは BIOS に認識されていません。「Fail」が表示される場合、BIOS がファンの故障を検知したか、ファンが取り外されています。BIOS セットアップを終了すると、「Fail」ステータスは再びリセットされます。

ファンがこの機能をサポートしていない場合は、ファンが動作していても「None」が表示されます。

Power Supply	表示されるステータス:	None/OK/Fail
Fan 1	表示されるステータス:	None/OK/Fail
Fan 3	表示されるステータス:	None/OK/Fail

Thermal Sensor State

温度センサーが動作しているかどうかを示します。「OK」が表示される場合、温度センサーはこの機能をサポートしており、動作しています。「None」が表示される場合、温度センサーは BIOS に認識されていません。「Fail」が表示される場合、BIOS が温度センサーの故障を検知したか、温度センサーが取り外されています。BIOS セットアップを終了すると、「Fail」ステータスは再びリセットされます。

温度センサーがこの機能をサポートしていない場合は、温度センサーが動作していても「None」が表示されます。

CPU	表示されるステータス:	None/OK/Fail
Inside	表示されるステータス:	None/OK/Fail
System	表示されるステータス:	None/OK/Fail

4.5 Console Redirection

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Com Port Address

端末との通信に使用するインターフェースを指定します。「Disabled」を設定すると端末の機能が無効になります。

Disabled

コンソールリダイレクションは使用不能になります。

Serial 1

最初のシリアルインターフェースがこの装置によって使用されます。

Baud Rate

端末との通信に使用する転送速度を指定します。
この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。
300, 1200, 2400, 9600, 19.2 K, 38.4 K, 57.6 K, 115.2 K

データは、設定した速度で端末に転送されます。

Console Type

割り当てられているコンソールのタイプを示します。
この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。
VT100, VT100/8bit, PC-ANSI/7bit, PC ANSI, VT100+, VT-UTF8

割り当てられているコンソールが、端末へのデータ転送に使用されません。

Flow Control

この設定は、インターフェースを介した転送の制御方法を指定します。

この設定は、端末とサーバで同一である必要があります。

None 転送を制御せずにインターフェースを動作させます。

XON/XOFF

インターフェースの転送制御は、ソフトウェアで行います。

CTS/RTS

転送制御は、ハードウェアで行います。このモードが、ケーブルでもサポートされている必要があります。

Continue C.R. after POST

BIOS POST (Power-On-Self-Test) 後に *Console Redirection* 機能を実行するかどうかを指定します。

Off POST 後に *Console Redirection* の実行を続行しません。

On POST 後に *Console Redirection* の実行を続行します。

5 Security メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

パスワードの入力に 3 回失敗すると、システムがシャットダウンします。その場合は、サーバの電源を切ってから再度電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてサーバを起動できない場合は、システムボード上のジャンパ設定を変更することで、パスワードをリセットできます。ジャンパ設定については、システムボードの該当するテクニカルマニュアルを参照してください。

Supervisor Password

管理者パスワードの現在のステータスを示します。

Not Installed

管理者パスワードが設定されていません。

Installed

管理者パスワードが設定されています。

User Password

ユーザーパスワードの現在のステータスを示します。

Not Installed

ユーザーパスワードが設定されていません。

Installed

ユーザーパスワードが設定されています。

Set Supervisor Password

[Enter] キーを押すとウィンドウが開き、スーパーバイザパスワードを設定することができます。文字列を入力して、パスワードを設定します。パスワードフィールドに何も入力しないで確定すると、パスワードは削除されます。



完全な BIOS セットアップを呼び出すには、スーパーバイザパスワードが必要です。ユーザーパスワードでは、BIOS セットアップへの非常に制限されたアクセスしか許可されません。

Setup Password Lock

管理者パスワードが設定されている場合に、パスワードで保護される対象範囲をこのフィールドで設定します。

Standard

管理者パスワードによって、BIOS セットアップユーティリティの無許可での開始を防止します。

Extended

管理者パスワードによって、BIOS セットアップユーティリティの無許可での開始を防止し、システム初期化フェーズでキーボードをロックします。これにより、専用 BIOS を持つ拡張カードに対する設定への無許可でのアクセスを防止できます。

Set User Password

ユーザーパスワードを設定するには、管理者パスワードがすでに設定されている必要があります。ユーザーパスワードは、システムへの不正アクセスを防止します。

[Enter] キーを押すとウィンドウが開き、ユーザーパスワードを設定することができます。文字列を入力してパスワードを設定します。パスワードフィールドに何も入力しないで確定すると、パスワードは削除されます。

ユーザーパスワードを入力して BIOS セットアップを呼び出した場合は、ほとんどのメニューオプションは変更できません。

Password On Boot

ブート前に、管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力する必要があるかどうかを指定します。

Disabled

パスワードを入力しなくても、システムがブートします。

First Boot

電源投入後、OS のブート前に 1 回だけパスワードを入力する必要があります。

Every Boot

ブートするたびにパスワードを入力する必要があります。

System Password Lock

Wake On LAN でのブート時にシステムパスワードを省略するか、入力する必要があるかを指定します。

Standard

OS のブート時にシステムパスワードをキーボードで入力する必要があります。

WOL Skip

Wake On LAN でのブート時に、システムパスワードは無効になります。

TPM (Security Chip) Settings

TPM (Trusted Platform Module) を有効にするためのサブメニューを開き、TPM 設定します (36 ページの「TPM (Trusted Platform Module) Settings」を参照)。

このセットアップメニューが表示される場合は、TCG (Trusted Computing Group) 1.2 仕様に準拠したセキュリティ / 暗号化 (TPM) チップが、システムボードに搭載されています。TPM が搭載されていないシステムでは、このメニューは表示されません。

SmartCard と同様に、このチップはセキュリティ関連のデータ (パスワードなど) を安全に保存できます。

Setup Prompt

BIOS POST 中に「Press <F2> to enter SETUP」というメッセージを表示するかどうかを指定します。

Disabled

「Press <F2> to enter SETUP」というメッセージは表示されません。

Enabled

「Press <F2> to enter SETUP」というメッセージは表示されます。

Virus Warning

前回のシステムの起動以降何らかの変更が行われているかどうかを確認するために、ハードディスクドライブのブートセクタをチェックします。ブートセクタが変更されていて、その変更理由が不明な場合は、適切なウイルス検出プログラムを実行する必要があります。

Disabled

ブートセクタはチェックされません。

Enabled

前回のシステムの起動以降ブートセクタが変更された場合 (たとえば、OS を新しくしたり、ウイルスの攻撃を受けたなど) に警告を表示します。変更を受け入れるか、この機能を無効にするまで、画面に警告が表示されます。

Confirm

ブートセクタへの必要な変更 (OS を新しくするなど) を承認します。

Flash Write

BIOS システムへの書き込み保護を設定します。

Disabled

BIOS システムへの書き込みはできません。Flash-BIOS アップデートはできません。

Enabled

該当のスイッチオプション（システムボードのマニュアルを参照）が書き込み可に設定されていれば、BIOS システムへ書き込むことができます。Flash-BIOS アップデートは可能です。

5.1 TPM (Trusted Platform Module) Settings

TPM を秘密鍵用のセキュアメモリとして使用できます。たとえば、このシステム上でのみ書き込みや実行が可能なデータを生成できます。インターネット接続用の SSL (Secure Socket Layer)、IPSec (LAN 暗号化)、S-MIME (電子メール暗号化)、WLAN 暗号化などのセキュリティプロトコルもサポートできます。

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Security Chip

TPM (Trusted Platform Module) のサポートを有効 / 無効にします。このパラメータは、TPM をハードウェアレベルで有効または無効にします。無効になっていると、TPM はそこに存在しないかのように動作し、検出も不能で、どんなコマンドにも反応しません。

Disabled

TPM サポートが無効になります。

Enabled

TPM サポートが有効になります。

Current TPM State

TPM の現在の状態を示します。

この状態が取り得る値は以下のとおりです。

Disabled and Activated

Disabled and Deactivated

Enabled and Activated

Enabled and Deactivated



Security Chip パラメータ（上記を参照）で TPM を無効にすると、TPM の状態は常に「Disabled and Deactivated」になります。

Change TPM State

TPM（セキュリティチップ）の状態を変更します。

TPM 状態の変更後、以下のステップが自動的に実行されます。

- システムをリセットする。
- 「TPM Physical Presence Operations」設定ページ（以下を参照）を自動的に表示する。
- システムをリセットする。
- 「TPM Physical Presence Operations」設定ページでのユーザーの選択次第で、TPM の状態の変更が実行されるか、または放棄される。

No Change

現在のセキュリティチップの状態を変更しません。

Enable & Activate

アプリケーションで使用できるようにセキュリティチップを有効化およびアクティブ化します。

Disable & Deactivate

セキュリティチップを無効化および非アクティブ化します。



注意！

TPM を無効にすると、他のセキュリティアプリケーションに影響を与える場合があります。

Clear

セキュリティチップに保存されているユーザーが生成した鍵をすべて消去します。



注意！

「Clear」を選択すると、セキュリティチップに保存されているユーザーが生成した鍵がすべて削除されます。また、暗号化されたデータにアクセスできなくなります。

TPM Physical Presence Operations



この設定ページは、オペレータの物理的操作が必要な限られた操作の実行プロセスでのみ表示されます。物理的操作が必要な操作の一例は、TPM 状態を変更する操作です。TCG のセキュリティ規定では、物理的操作が必要な操作はオペレータが確定する必要があると定められています。

物理的な操作が必要な操作は、BIOS セットアップ（「*Change TPM State*」パラメータを参照）、または TPM を使用する他のソフトウェア（たとえば OS）によって開始できます。この設定ページを自動的に表示する理由は、ユーザーに通知せずに不正ソフトウェアによって限られた操作が無許可で実行されることを防止するためです。これにより、TPM の状態が意図せずに変更されてしまうことを防止できます。

Reject

物理的操作が必要な操作（TPM の消去など）を破棄します。

Execute

物理的操作が必要な操作（たとえば、TPM の状態を「*Enable & Activate*」に変更する操作）の実行を確定します。

6 Power メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

Power-on Source

システムの電源管理機能を BIOS と ACPI OS のどちらで管理するかを指定します。

BIOS Controlled

電源管理機能は BIOS によって管理されます。

ACPI Controlled

電源管理機能は ACPI OS によって管理されます。

Power-on Source: LAN

システムボードまたは拡張カード上の LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができるようにするかの設定です。

Disabled

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることはできません。

Enabled

LAN コントローラを経由してシステムの電源を入れることができます。

Power-on Source: Wake Up Timer

特定の時刻、または特定の時間の経過後にシステムの電源が入るようにするかどうかを設定します。

電源投入日は、BIOS セットアップでは指定できません。電源投入日を設定するには、適切なアプリケーションが必要です。

Enabled

タイマ制御を使用してシステムの電源を投入できます。

Disabled

タイマ制御を使用してもシステムの電源を投入できません。



注意！

重大なシステムエラー後のリブートは、この設定の影響を受けません。

Power-on Source: Wake Up Time

システムの電源が投入される正確な時刻を指定します。

Power メニュー

00:00:00

Power-on Source: Wake Up Mode

電源投入周期を指定します。

Daily

システムの電源投入は毎日 1 回行われます。

Monthly

システムの電源投入は毎月 1 回行われます。

Power-on Source: Wake Up Day

システムの電源を投入する日を指定します。

1, 2, 3, ... 31

システムの電源は指定した日に投入されます。

Power Failure Recovery

停電後のシステムの再起動動作を指定します。

Always Off

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を切断します。

Always On

システムは、ステータスチェックを行ってから電源を投入します。

UPS スケジュール運転の場合は、「*Always On*」に設定してください。「*Always On*」に設定しないと、設定された電源投入時刻になってもサーバの電源が入らない場合があります。

Previous State

システムは、ステータスチェックを行ってから、停電発生前のモード (*On* または *Off*) を返します。

Disabled

システムの電源は投入されません。



短い初期化プロセスで、すべての起動ソースが再設定されます。システムは、LAN などを経由して起動できます。「*Disabled*」が設定されると、システムを起動できるのは電源ボタンのみとなります。

0-Watt PC Feature

省電力化および可用性を最適化します。

Disabled

省電力化が無効になり、システムをいつでもリモート管理できません。

Enabled

シャットダウンするたびに省電力化が有効になり、リモート管理はできません。

また、*Wake Up Timer* 機能も使用できません。

Scheduled

省電力化は「Enabled」と同様に有効ですが、管理ウィンドウを「*Administration Start*」パラメータと「*Administration End*」パラメータで指定できます。

クライアント：リモート管理および *Wake Over LAN* (WOL) 機能を指定した時間枠で使用できます。

サーバ：動作時間を使用でき、指定した時間枠で *Wake Up Timer* 機能が有効です。

Administartion Start

管理ウィンドウの開始時間を指定します。



「0-Watt PC Feature」パラメータは「*Scheduled*」に設定されません。



管理期間中に夏時間に変更されることがあります。

Administartion End

管理ウィンドウの終了時間を指定します。



「0-Watt PC Feature」パラメータは「*Scheduled*」に設定されません。



管理期間中に夏時間に変更されることがあります。

7 Boot メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

このメニューは、システムをブートするドライブの順位を指定するのに使用できます。USB インターフェースなどを含む最大 8 台のドライブを設定できません。

操作の参考として、このメニューのヘルプ領域を参照してください。

Boot priority order

現在のブート順位が表示されます。

- ▶ ブート順位を変更するデバイスを選択するには、カーソルキー **↑** または **↓** を押します。
- ▶ 選択したデバイスの優先順位を上げるには **+** キーを押し、優先順位を下げるには **-** キーを押します。
- ▶ 選択したデバイスをブート順位から削除するには、**x** キーを押します。ブート順位から削除されたデバイスは、「*Excluded from boot order*」リストに追加されます。
- ▶ キー **1** ~ **4** を押して、4 つの異なる標準ブート順位設定をそれぞれ選択します。

Excluded from boot order

ブート順位から除外されるデバイスが表示されます。ここにリストされているデバイスは、ブートデバイスとして使用できません。

- ▶ デバイスを選択するには、カーソルキー **↑** または **↓** を押します。
- ▶ そのデバイスを「*Boot priority order*」リストの最後のエン트리として再び表示するには、**x** キーを押します。

8 Exit メニュー

このメニューでは、以下のパラメータを設定できます。

Save Changes & Exit

現在のメニューエントリを保存して、BIOS セットアップを終了するには、「*Save Changes & Exit*」の選択後、「Yes」を選択します。システムがリブートされ、新しい設定が有効になります。

Discard Changes & Exit

行った変更を破棄するには、「*Discard Changes & Exit*」の選択後、「Yes」を選択します。

BIOS セットアップを開いたときに使用した設定が、有効なままとなります。BIOS セットアップが閉じられ、システムの起動が再開されません。



一部のシステムでは、リセットされます。

Get Default Values

すべての BIOS セットアップメニューをリセットしてデフォルト値を使用するには、「*Get Default Values*」の選択後、「Yes」を選択します。

これらの設定を保存して BIOS セットアップを終了するには、「*Save Changes & Exit*」の選択後、「Yes」を選択します。

Load Previous Values

BIOS セットアップの起動時にアクティブだったすべてのメニューの値をロードするには、「*Load Previous Values*」の選択後、「Yes」を選択します。

これらの設定を保存して BIOS セットアップを終了するには、「*Save Changes & Exit*」の選択後、「Yes」を選択します。

9 Flash BIOS アップデート

Flash BIOS アップデートを実行するには、最初に、必要なファイルをインターネットからダウンロードする必要があります。

ファイルは <http://ts.fujitsu.com> からダウンロードできます。

BIOS アップデートファイルを保存する USB メモリが必要です。この USB メモリを Flash BIOS メディアと呼びます。このメディアのデータは、完全に消去され、上書きされます。



注意！

BIOS はフラッシュメモリデバイスに保存されます。Flash BIOS アップデート手順でエラーが発生すると、フラッシュメモリ内の BIOS イメージが破壊される場合があります。破壊された場合の BIOS の復元は、「Flash Memory Recovery Mode」を使用する以外に方法はありません（48 ページの「Flash Memory Recovery Mode」を参照）。これで復元できない場合は、フラッシュメモリデバイスを交換する必要があります。カスタマサポート「Service Desk」にお問い合わせください。

- ▶ 万一来備えて、BIOS セットアップの設定を書き留めておきます。通常、Flash BIOS アップデートは、BIOS セットアップの設定に影響を与えません。
- ▶ 挿入した Flash BIOS メディアでシステムをブートします。
- ▶ 以下のキーを押下します。

+ [Enter]

BIOFLASH.EXE ユーティリティは、まず BIOS アップデートファイルを読み込みます。フラッシュメモリのタイプが自動認識されると、プログラミングが開始します。以前の BIOS バージョンが削除され、BIOS アップデートファイルの内容で上書きされます。

プログラミング中、画面に進捗が表示されます。Flash BIOS アップデートが完了すると、完了を示すメッセージも表示されます。

- ▶ システムの電源を切り、Flash BIOS メディアを取り出します。次回システムの電源を投入したときには、新しい BIOS バージョンでブートされます。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。



注意！

プログラミングの進行中はシステムの電源を切ったり、リセットしたりしないでください。

- ▶ この動作中は、RESET ボタンを押したり、**[Ctrl] + [Alt] + [Del]** キーを同時に押したりしないでください。
- ▶ コンピュータの電源を切ったり、電源プラグを抜かないでください。

これらの行為によって、Flash BIOS アップデートは中断され、BIOS イメージが破壊されます。

Flash BIOS アップデート後のエラーメッセージ

Patch for installed CPU not loaded. Please run the BIOS flash update diskette.

次のシステムブート時にこのエラーメッセージが表示される場合は、ロードされたプロセッサのマикроコードのアップデートを読み込む必要があります。

- ▶ 挿入した Flash BIOS メディアからシステムをブートします。
- ▶ 以下の操作でアップデートを実行するかどうかについての質問に答えて、通常の Flash BIOS アップデートを中断します。
[n] + [Enter]
- ▶ マイクロコードのアップデートを実行するには、以下を入力します。
`bioflash /p6 +[Enter]`.

9.1 Flash Memory Recovery Mode



注意！

BIOS はフラッシュメモリデバイスに保存されます。Flash BIOS アップデート手順でエラーが発生すると、フラッシュメモリ内の BIOS イメージが破壊される場合があります。破壊された場合の BIOS の復元は、「Flash Memory Recovery Mode」を使用する以外に方法はありません。これで復元できない場合は、フラッシュメモリデバイスを交換する必要があります。カスタマサポート「Service Desk」にお問い合わせください。

- ▶ システムの電源を切って、電源プラグを抜きます。

- ▶ シャーシを開き、システムボード上のジャンパ/DIP スイッチを使用して「Recovery」(RCV) に設定します。



通常、リカバリモードでは画面出力はできません。

一部のシステムでは、システムボード上の「PWD Skip」(SKP) ジャンパ/DIP スイッチをオンにして、画面上でアップデートの進捗を確認できます(システムボードのテクニカルマニュアルを参照)。

- ▶ 再度電源プラグを差し込んで、システムの電源を投入します。
- ▶ 挿入した Flash BIOS メディアからシステムをブートします。
- ▶ ブザーから出るビープ音を確認します。「ピピピーピー」というビープ音が聞こえ、メディアアクセス表示ランプがオフの場合は、システムの復元に成功しました。リカバリアップデートには数分かかる場合があります。
- ▶ システムの電源を切って、電源プラグを抜きます。
- ▶ Flash BIOS メディアを取り出します。
- ▶ 変更されたジャンパ/DIP スイッチをすべて、元の位置に戻します。
- ▶ 再度電源プラグを差し込んで、システムの電源を投入します。システムは、新しい BIOS リビジョンでブートされます。
- ▶ BIOS セットアップユーティリティの設定を確認します。必要に応じて、設定をし直します。

索引

数字

0-Watt PC Feature 40

32 Bit I/O 14

A

Adjacent Cache Line Prefetch 26

Administration Start 41

Administration End 41

Advanced System Configuration 22

Advanced メニュー 19

Advanced Processor Option 19, 23

Advanced System Configuration 19

B

Battery State 28

Baud Rate 30

BIOS セットアップ

画面構成 10

終了する 11

設定の誤り 11

ナビゲート 9

開く 9

Boot Features 16

Boot メニュー 17

Boot Features 13

Boot Options メニュー 43

Boot priority order 43

Boot メニュー

直ちに開く 9

C

Change TPM State 37

Com Port Address 30

30

Console Redirection 19

Console Type 30

Continue C.R. after POST 31

Core Multi-Processing 25

CPU MC Status Clear 27

CPU Mismatch Detection 24

CPU Timeout Counter 28

Current TPM State 36

D

DCU Streamer Prefetch 27

Discard Changes & Exit 45

E

Enhanced Idle Power State 24

Enhanced SpeedStep 24

Excluded from Boot Order 43

Exit メニュー 45

Extended Memory 13

F

Fan State 29

Fast Boot 16

Firmware 15

Flash BIOS アップデート 47

Flash Memory Recovery Mode 48

Flash Write 36

Flow Control 30

G

Get Default Values 45

H

Hardware Prefetch 26

High Precision Event Timer 23

L

LAN Controller 22

LAN Remote Boot 22

LBA Mode Control 14

Limit CPUID Functions 27

Load Previous Values 45

M

Main メニュー 13

Maximum Capacity 14

Multi-Sector Transfers 14

N

NumLock 17
NX Memory Protection 26

O

Onboard Video 22

P

Parallel Mode 20
Parallel Port 20
Password On Boot 34
PCI SLOTS Configuration 19
Peripheral Configuration 20, 19
POST Diagnostic Screen 17
POST Errors 16
Power Failure Recovery 40
Power メニュー 39
Power-on Source
 LAN 39
 39, 40

S

SATA Mode Selection 23
SATA Port 13
Save Changes & Exit 45
Security Chip 36
Security メニュー 33
Security Chip 35, 36
Serial 1 20
Set Supervisor Password 33
Setup Password Lock 33
Setup Prompt 35
Set User Password 34
Simultaneous Multithreading 25
SM Error Halt 16
SMART Device Monitoring 23
SMART Monitoring 15
SM Fan Control 28
Supervisor Password 33
System Management 19
System Password Lock 34
System Time 13
System Date 13
System Memory 13

System Date 13

T

Thermal Sensor State 29
Total Sectors 14
TPM Physical Presence
 Operations 37
TPM Settings 35
Security Chip 35
TPM Settings 36
Transfer Mode 15
Turbo Boost Technology 24

U

Ultra DMA Mode 15
USB Devices 21
USB Front 21
USB Rear 21
USB Host Controller 21
User Password 33

V

Virtualization Technology (VT-d) 26
Virtualization Technology (VT-x) 25
Virus Warning 35

W

Wake Up Day 40
Wake Up Mode 40
Wake Up Time 39
Wake Up Timer 39

え

エラーメッセージ 48